

1 自己評価及び外部評価結果

作成日： 平成24年12月10日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4070702818		
法人名	株式会社シダー		
事業所名	あおぞらの里 グループホーム黒崎	ユニット名	
所在地	福岡県北九州市八幡西区東鳴水三丁目6番1号		
自己評価作成日	平成24年10月25日	評価結果市町村受理日	平成25年1月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般財団法人 福祉サービス評価機構
所在地	福岡市博多区博多駅南四丁目3番1号 博多いわいビル2階
訪問調査日	平成24年11月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>①毎月1回、入居者の方が日々どんな暮らしをされているのか写真入りのお便りと近況報告をご家族へお送りしております。ご家族の面会が多いため、今後のケア等について一緒に考えていくように努めております。</p> <p>②できるだけ長く元気に過ごして頂けるように、生活の中でできる事、できない事を見極めながら自立支援を目指しております。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>平成16年に開設した“あおぞらの里グループホーム黒崎”は、23月11月に車で3分の場所に新築移転してこられ、引越しの時は家族も手伝って下さった。新しい環境の中で管理者やケアマネの方も新体制となり、管理者は1階のデイサービスと兼務しながら、日々の業務や申し送り時などに職員の意見を聞いてこられた。本社との連携もあり、介護保険制度などの不明点は内部監査室に聞ける体制にあり、適宜アドバイスを頂いている。代表は言語聴覚士で、幹部の方も理学療法士や作業療法士が複数おられ、リハビリの大切さをホームの職員も理解している。生活リハビリを中心に、可能な限り歩く事を大切にすると共に、お茶碗拭きやお菓子作り、観葉植物の手入れ、編み物などの役割や楽しみも作られている。朝食以外は1階の厨房で調理しており、月2回の“手作りの日”にはホームで焼うどん等が作られ、男性の入居者も一緒に下ごしらえ等を楽しまれている。おやつ作りが上手な職員もおられ、ロールケーキ等のおやつも楽しみの一つとなっている。地域の散歩も行い、近くのお地藏さんにお参りされる姿も見られており、今後も地域の中に溶け込み、更なる外出の機会を増やしていく予定にしている。</p>
--

自己評価および外部評価結果

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	常にフロアに掲示しており、勉強会等で自分達のケアを振り返るようにしております。	“今までの生活歴を重視し、よりその方らしい生活が継続できるよう…”、入居者との会話を大切に、生活歴などの把握に努めている。編み物を楽しまれる方や男性の方も一緒に料理作りを楽しまれている。ホームの交流会に地域の方が参加して下さり、一緒に会話をしたり、食事やお菓子を作るなど、楽しい時間を過ごされている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入しており、地域の行事には極力参加するよう心掛けております。日常では散歩に出て交流を図るよう努めております。	移転以来、散歩の時などに近隣の方々に挨拶を続けると共に、管理者が朝7時30分から地域のゴミ拾いを行っている。近くの貴船神社の宮司の方とも交流ができ、ホームに来て、お祭りの説明などをして下さっている。地域で行われる宿場祭りや黒崎祇園祭りにも参加し、町内の敬老会では子供たちの踊りなどを楽しまれた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	交流会の中で入居者の方と接して頂く事で伝えております。今後、認知症サポーター養成講座を開催できればと思っております。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	その時々で必要な報告を行っております。なかなか意見は出にくい現状ですので、もっと意見交換のできる雰囲気になればと思っております。	移転時から会議の参加メンバーも変更になった。あらためて会議の目的の説明が行われ、会議の時には地域情報も頂けている。地域貢献の目的で勉強の機会も作られ、心肺蘇生の講習会や消防訓練も行われている。家族交流会も開催され、会議の参加者と一緒に食事を作ったり、一緒に食べる機会も作られている。	今後もより多くの意見を頂くために、アンケートを継続していく予定である。認知症の理解を深めて頂く目的で、認知症サポーター研修等の企画をしていくと共に、保育園や小学生の子供達との交流を図るために、民生児童委員等にも子供たちの状況を教えて頂く予定である。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村との連携については、運営推進会議のみ連絡をとっている現状。お互いに協力できる関係を構築していきたいと思っております。	ケアマネの方が複数の区役所の窓口へ更新申請に行かれており、窓口の方とも顔見知りになっている。ケアマネの方からのアドバイスもあり、運営推進会議のあり方を検討中で、内容や進め方、構成メンバー等について、地域包括の方にも相談をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を定期的に開催する事で新入職員も正しく理解する事ができております。	ホーム内で勉強会が行われ、新人の方には身体拘束のDVDを見て頂き、レポートを書いて頂いている。穏やかに過ごされている方が多く、その日の体調を見ながら役割も担って頂いており、感情が不安定な時は傾聴し、個別の対応をしている。1階の玄関は電気施錠されているが、自由に外出できる環境が作られている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	虐待についても勉強会を毎年開催しており、日々の言動について振り返るようにしております。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	全ての方に対してではないですが、検討されているご家族にはパンフレットや資料をお渡しして説明させて頂いております。	管理者は権利擁護の資料を職員に配布し、内部研修をしている。パンフレットもホームに準備しており、入居時に管理者が制度の説明をしている。現在、制度を利用している方はおられないが、個々の必要性は随時検討している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に契約内容についてご説明させて頂いております。変更時には運営推進会議の場でご説明させて頂き理解を得るよう努めております。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族からの意見は少ないため、もっと意見交換しやすい雰囲気となるよう普段から面会時には積極的にコミュニケーションを図るよう努めております。	ホームの引っ越し時、家族の方も手伝って下さり、「綺麗になって良かったですね」と喜んで下さった。毎月のお便りと共に、個別の暮らしぶりを担当職員が手紙に書き、郵送している。家族の面会が多く、家族の意見を伺うように努めている。葬儀参列への希望があり、職員も精神的なサポートをしながら実現する事ができた。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体運営会議や勉強会などで職員の意見を聞く機会を設けております。個別に面談する事もあります。	新管理者は1年間を通して、日々の業務や会議、申し送り時等に職員の意見を聞いてこられた。ケアに関する意見や休憩時間の取り方、役割分担等についての要望を含めて、職員からの意見は多く、入居者の状況や現状を職員と検討した上で、試行期間を設け、改善に向けた取り組みが行われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々にあった役割分担を行っております。また、資格取得に対して研修会を開催する等のサポート体制も整っております。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	採用条件は特に定めておりません。入職前に1日職場体験を行い、全てを見て頂いた上で意思を確認して頂いております。職員については、個々にあった役割を分担しております。	管理者が一次面接を行い、二次面接は課長なども一緒に行っている。採用時は、社長の方針でもある“資格の有無に関わらず、転んでいたら人は手を差し伸べる。その優しさと笑顔で仕事ができる方”を大切にしている。本所で資格取得のための勉強会も行われ、職員の年齢層も広く、得意な分野で力を発揮して頂いている。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	研修の開催、マニュアルにて職員教育を行っております。入居者様に対する言葉遣いが乱れている職員については、個別に指導しております。	接遇研修の他、人権、プライバシー保護のための業務マニュアルに基づき職員教育が行われている。年1回の契約更新時には、入居者に対する言葉遣い等、気になる点についての個別指導が行われ、新たな取り組み目標の話し合いも行われている。「自分の親だったら？」と、日々のケアを振り返る機会も作られている。	

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員がステップアップできるよう研修制度があり、毎月職員を受講させております。受講した職員が他の職員へも伝達講習を行っております。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に加入しております。勉強会等に参加できない事がありますが、連絡をとったりしております。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にご本人とお会いし、傾聴しております。入居後は、職員が1名その方の担当につき不安を軽減できるよう努めております。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に1度見学に来て頂けるようお願いしております。しっかり傾聴し、入居後も随時対応しております。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人とご家族より傾聴しますが、入居前に関わっていたサービス事業者からも情報収集しております。その上で今後の支援について検討しております。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「できる事は一緒に」を念頭に関係を築いております。定期的に入居者様の心理を考える時間を設けております。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の面会は比較的多く、ご家族に相談しながら支援の方向性を検討しております。毎月、お便りで近況報告を行っております。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	毎月、写真付きのお便りをお送りしております。ご家族より、身内の方や友人の見せていると伺っております。年賀状書きのお手伝いも毎年継続しております。	ご本人との会話や家族の面会時に、生活歴や馴染みの方を教えている。年賀状を書くお手伝いをしており、友人の方からも年賀状が届いている。散歩中に親戚と会われた時に涙を流して喜ばれる方もおられ、町内の祭りや敬老会への参加の機会も作っている。家族と一緒に、お墓参りや美容室に行かれる方もおられる。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	時に口論される事もありますが、職員が間に入り双方が傷つかないよう配慮しております。極力、居室ではなく共同フロアで過ごし、交流の時間を作るよう努めております。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院中の方についてはお見舞いに伺っております。ご家族へはお手紙を書く事もあります。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	担当者が中心となり意向を伺っております。表情や仕草にも注目しながら全職員で情報を共有し把握しております。	ケアチェック表と独自のアセスメントシートを活用して、ご本人の生活歴や趣味、嗜好、性格(こだわり)などの情報収集に努めている。センター方式のシート(D1など)を通して、ご本人の気持ちがわかってくる事もあり、職員間の情報共有もしている。意思を伝える事が難しい方は、表情やしぐさから思いを把握するように努めている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族とのコミュニケーションを大切にしており、面会時や交流会では積極的にお話をさせて頂いております。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	詳細に記録を残すよう努め、全職員で情報を共有しております。今後の方向性について話し合いを行いその方に合った支援を心掛けております。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族の要望等をもとに検討し介護計画を作成しております。主治医の先生や訪問看護師のアドバイスを頂く事もあります。	ホームでの過ごし方や近況を家族に報告している。返信用のアンケートを活用して意見や要望を伺い、家族や主治医等の意見は計画に反映している。地域で暮らすと言う視点と共に、ご本人の力が発揮できるように、お茶碗拭き、買い物、外出、お菓子作り、神社のお祭り、初詣等も盛り込まれ、家族の役割も記載されている。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録下段に日々の評価コメント欄があり、全員で記入しております。計画の見直しの際に参考にしております。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入浴の時間を指定されたり、食事内容の変更依頼、外出願望等について臨機応変に対応できるよう心掛けております。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事には極力参加するようしております。今後は、学校や幼稚園等の子供達とも交流が図れるよう関係作りに努めたいと思っております。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的な往診と受診が受けられ安心して頂けるように支援しております。	ホームを移転した時に協力医療機関も変更した。往診の回数も増え、電話での指示も頂けており、緊急時は夜間も来て下さる。職員の相談に親身に対応して下さい、職員の安心になっている。家族が受診支援される場合は、近況報告のお手紙を主治医に渡して頂き、受診結果の報告も頂いている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週2回、訪問看護師の訪問があり、日々の健康管理や病院受診のアドバイス、介護計画への助言をもらっております。緊急時には連絡がとれるような体制となっております。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、入居者様が混乱しないようにその方の情報をお渡しすると共に性格や詳細な情報については直接病院側へお伝えしております。退院時には、入院中の情報を頂き退院後の注意点等アドバイスを頂いております。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合、看取りを希望された時の準備はしておりますが、実際の経験がないため十分な対応ができるか不安はあります。ご家族を含め関係者で連携を図りながら対応していきたいと思っております。	入居時や体調が変化した時に、ご本人や家族の意向確認を行っている。ホーム開設以来、看取りケアの経験はなく、職員の不安を軽減するためにも、重度化した場合の対応について、主治医や訪問看護師からのアドバイスを頂き、勉強の機会を増やしている。日頃から生活リハビリに努め、車いすに頼らず、なるべく歩いて移動できるように支援し、家事も手伝って頂いている。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に勉強会を実施しております。今年にはご家族も含めてAEDの使用方法について行う予定としております。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練の時に避難場所(鳴水市民センター・黒崎中学校)については周知しております。地域との協力体制は十分に築けているとは言えないため、今後努力していきたいと思っております。	入居者、デイサービス職員、消防署の方と昼夜想定訓練が行われ、運営推進会議の時に避難訓練が行われた。災害に備え、緊急連絡先名簿、ビニールシートなどを準備し、食料については同グループの近隣施設より調達予定にしている。隣接する別系列のデイサービス(代表者)の携帯も登録させて頂き、合同訓練も依頼している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	定期的に職員の言動について、本社の職員が確認しております。その結果について、職員同士検討し改善に努めております。	職員は、入居者一人ひとりの誇りや自尊心を大切にされている。丁寧語を原則にしているが、時に馴れ合いの言葉になる事もあり、全体ミーティングで振り返る機会を作り、この1年で言葉遣いもかなり良くなっている。3ヶ月に1回、接遇などの確認目的で本社の方がホームに来られ、アドバイスも頂いている。	忙しくなると、“ちょっと待って下さい”という言葉が聞かれる時があるとの事。今後も職員自身の行動を振り返ると共に、認知症の勉強会に参加していく予定にしている。家族との面談場所にも配慮し、個人情報を守る方法も検討していきたいと考えている。
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様によって意思表示が異なります。二者択一にしてみたり、表情から読み取ってみたりとご本人の希望を汲み取るよう努めております。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の状況や表情に合わせて、入居者様が前向きになれるように、お声かけのタイミングや方法については工夫しております。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理美容を心待ちにしている方がいれば、行きつけのお店へご家族と行かれる方もおられます。爪切りや髭そりはお声かけさせて頂き、お手伝いが必要な方へは支援しております。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	通常は、厨房(委託業者)からの給食です。月に数回の手作りの日には入居者様のリクエストにお答えできるようにしております。週に1回のおかし作りも楽しみにされている様子です。	入居者の食べたい物を聞き、厨房に伝えている。朝食は職員が作り、昼食は配膳された料理が厨房から届けられ、夕食は厨房で作られた料理を入居者も一緒に配膳している。月2回の手作りの日にはハンバーガーや焼うどん等が作られ、男性の入居者も一緒に、下ごしらえや味付け、盛り付け等を楽しまれている。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体重の増減(月1回)、食事量および水分量、排泄状況(毎日)を観察しながら支援しております。糖尿病の方については、ご家族と相談させて頂きながら対応方法を決めております。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っております。ご自分でできる所はお願いし、できない所や仕上げは職員がお手伝いさせて頂いております。義歯のお手入れも行っております。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄管理表を用いて、その方の排泄パターンを把握するように努めております。できるだけトイレでの排泄ができるよう支援しております。	トイレでの排泄支援が行われ、日中は下着を着用されている方が多い。入居者個々の排泄感覚を把握し、個別の支援をしている。失禁された時は他の方にわからないようにすると共に、ご本人を傷つける事のないように配慮している。便秘の方も多く、排便の日数を記録し、主治医にも相談している。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤コントロールが必要な方が多い状況です。腹部マッサージを行ったりや水分摂取量を増やしたりといった対応を行っております。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	職員の都合もありますが、入居者様の体力の問題からご家族の了承を得て週2回としております。	週2回の入浴となっているが、希望される場合は週3回以上の入浴も可能で、毎朝全員の清拭も行われている。お風呂好きな方が多く、希望の時間を指定される方や、お好みでナイロンタオルが使われている方もおられる。入浴時は職員との会話を楽しみ、歌も聞かれている。季節に応じて菖蒲湯や柚子湯も楽しまれている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転しないよう日中は活動的に過ごして頂けるよう支援しておりますが、体調不良や気分不良時には居室で休んで頂いております。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬情報については、いつでも職員が確認できるようにしております。日々の変化等については、介護記録に記録しております。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や趣味を大切に、極力継続できるよう支援しております。		
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	病院受診の希望があれば対応しており、その帰りにおやつを買って帰る事もあります。時には日用品の買い物や衣類等を一緒に行った事もあります。	23年11月に今の地域に引っ越してこれ、少しずつ地域の散策を続けてこられた。ホーム近くのお地蔵さんを拝みに行かれたり、おやつを買いにコンビニに行かれる方もおられる。生活リハビリに力を入れており、歩行訓練を兼ねた散歩も増やしている。春には桜の花見、高塔山にあじさい見物、遠賀川にコスモスを見に行かれ、お弁当持参でお花見ドライブを楽しまれている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	その方のニーズに合わせて財布を所持して頂いております。何かを買いたいというのではなく、持っていると安心されるようです。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は希望があれば対応しております。その他、年賀状を出せるようお手伝いさせて頂いております。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	感染症対策および消臭対策には力を入れております。その他は、季節感を感じて頂けるようディスプレイを工夫しております。	ホームの玄関にはアロマのミストがあり、加湿と共に香りも楽しまれている。リビングの飾り付けは大人の方が生活されている事を重視し、入居者と一緒に作られたカレンダーや季節に応じた紅葉の飾りなどをセンス良く配置している。テレビの横には、入居者が大切に育てている観葉植物があり、日当たりの良いリビングで元気に成長している。空気清浄機もあり、感染防止対策にも努めている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室、テーブルスペース、ソファスペースを作る事でお過ごし頂く場所を選んで頂けるようにしております。時には、場所の取り合いになる事もありますが、それも社会的刺激となり良い刺激だと思っております。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	担当職員がご家族と相談しながら、必要な物を揃えたり使い慣れた物の配置を検討しております。担当職員は定期的に居室の清掃も行っており、時には入居者様と一緒にする事もあります。	居室は自宅と考え、職員は室内靴を脱いで各居室に入られている。自宅で使用していたチェストやテレビなどの他、馴染みの物(本・藤の籠)や、襟元に奥様がタオルを縫い付けられた毛布や愛用の枕などを持ち込まれている。居室内には家族と撮った写真が飾られ、家族が持って来られた鉢植えなども置かれている。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	生活に動きがでるような環境設定をしております。できる事を日々支援させて頂いております。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

事業所名: あおぞらの里 グループホーム黒崎

作成日: 平成 24 年 12 月 24 日

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
 目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】 注)「項目番号」の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。					
優先順位	項目番号	次のステップに向けて取り組みたい内容	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	運営推進会議で、なかなかご家族からの意見が出にくい現状である。そして、地域の方々が気軽に立ち寄る事ができるようなホームにしたい。	意見交換しやすい環境作りとより多くの方々に認知症について知って頂きたい。	・運営推進会議後のアンケートを継続し、もっと意見を記入しやすいように質問形式のアンケートにする等工夫。 ・地域の子供達との交流。	12 ヶ月
2	38	忙しい時間帯には「ちょっと待って下さい」という指示するような言葉が聞かれる時がある。	入居者様お一人お一人を尊重し、常に笑顔で丁寧な言動を心掛けていきたい。	・職員同士が互いの言動を注意し合える環境作り。	6 ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月